

事業者行動(計画・変更計画・報告)書

令和4年 7月28日

(宛先)  
滋賀県知事

提出者  
住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地)  
滋賀県犬上郡甲良町在士古田681

氏名(法人にあっては、名称および代表者の氏名)  
北海製罐株式会社 千代田工場 滋賀事業  
事業所長 川田 学

滋賀県CO<sub>2</sub>ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例

第25条第3項・第25条第4項  
第27条第1項→第27条第2項において準用する同条例  
第26条第1項  
第27条第2項において準用する同条例第26条第1項

第25条第4項の規定に基づき、  
[事業者行動計画を策定(変更) 事業者行動報告書を作成] したので、提出します。

事業者の氏名 (法人にあっては、名称および代表者の氏名)	北海製罐株式会社 代表取締役社長 池田 孝資
事業者の住所 (法人にあっては、主たる事務所の所在地)	東京都千代田区丸の内2-2-2 丸の内三井ビル

1 事業者の概要

事業所の名称	北海製罐株式会社 千代田工場 滋賀事業所					
事業所の所在地	滋賀県犬上郡甲良町在士古田681					
主たる事業	日本標準産業分類 細分類番号	1	8	9	2	※産業分類・細分類名称を記載 プラスチック製容器製造業
事業の概要	飲料用ペットボトルの製造					
従業員の数	36	人	作業時間	24	時間/日	
該当する事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量が、年間1,500キロワット以上の事業所を県内に有する事業者 <input type="checkbox"/> 従業員数が21人以上であって、エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガス排出量が、二酸化炭素換算で年間3,000トン以上の事業所を県内に有する事業者 <input type="checkbox"/> 任意提出事業者					
主要な設備	ボイラ	台	熱源設備	16	台	照明設備 610 台
	コンプレッサ	6	台	空気調和設備	43	台

2 計画期間(および報告対象年度)

計画期間	開始年度	令和4	年度	報告対象年度	令和4	年度
	終了年度	令和8	年度			

3 計画の(内容・実施状況)

計画の(内容・実施状況)	別添のとおり
--------------	--------

注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番とします。

1 CO<sub>2</sub>ネットゼロ社会づくりに係る取組に関する基本的な方針

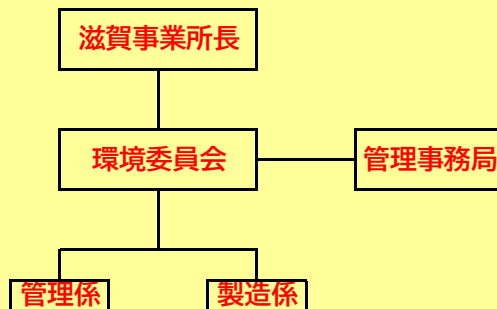
私たちホッカンホールディンググループは、容器・充填・機械メーカーとして「かけがえのない地球」より恵みを受けて企業活動を行っていることを深く認識し、地球環境の持続という社会的課題の解決に向けて積極的に取り組みます。

1. 気候変動問題への対応に積極的に取り組み、温室効果ガス排出量は、2050年までに「カーボンニュートラル」を目指します。
2. 枯渇性資源や水資源を含むあらゆる資源の持続可能な利用への取り組みを行います。資源の利用低減を進めながら、再資源化による廃棄ゼロを目指し、容器包装の持続可能な資源循環システム作りに積極的に参画します。また持続可能な水質源の利用を図ります。
3. サプライチェーン全体で環境負荷軽減の取り組みを行います。環境負荷物質の適切な管理、排出量の削減を行います。また環境汚染の未然防止の措置を実施します。
4. 事業活動を行う全て国・地域の環境法令・規制を遵守し、継続的な改善に努めます。
5. 地域社会の環境活動に積極的に参画し、地域との共生を目指します。
6. グループの全役職員に環境方針を周知し、環境保全への意識高揚に努め、全役職員一体となって環境保全活動を推進します。

2 取組の推進体制

○ 責任者 北海製罐株式会社 千代田工場 滋賀事業所 事業所長

○ 推進体制（組織図）



3 これまでに取り組んできたCO<sub>2</sub>ネットゼロ社会づくりに係る取組

- 省エネ対策として、平成25年度より以下の取り組みを行ってきました。
- ・照明設備について、水銀灯からLEDに更新実施(継続更新計画)
  - ・ポンプを高効率タイプに更新実施(継続更新計画)
  - ・工場内空調設備についてエアハン式空調から高効率空調に更新実施
  - ・吸収式冷凍機から高効率型冷凍機に更新実施
  - ・製造工程ごとに高圧エア使用量の見える化実施
  - ・機械室の給排気運転を冬季間停止

(第2面)

4 自らの温室効果ガス排出量の削減に向けた取組

(1) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の削減に向けた取組の内容等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	設備導入	照明設備の高効率化	R4～8年度	
2	設備導入	ポンプの高効率化	R4～8年度	
3				
4				
5				

(2) エネルギー起源CO<sub>2</sub>以外の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の内容等

	温室効果ガスの種類	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1				
2				
3				

(3) 上記の取組により達成しようとする目標および目標の進捗に対する自己評価

取組目標および目標設定の考え方	目標の進捗に対する自己評価
<p>上記の取組等により、令和3年度を基準年度として、以下の数値目標の達成を目指します。</p> <p style="text-align: center;">             原単位 <math>\frac{\text{温室効果ガス排出量}}{\text{生産数}}</math> </p> <p>原単位の考え方は下記のとおりです。              温室効果ガス排出量は生産数に大きく影響を受ける為、生産数を原単位の分母として設定しました。実績を目標と適切に対比する為計画期間中の各年度の温室効果ガス排出量の計算に当たっては、電力のCO<sub>2</sub>排出係数は基準年度(R4年度)の係数に固定。              目標値は原単位が前年度実績値より1%の削減</p>	

(4) 温室効果ガス排出量等の実績

	計画開始年度前年度の実績	実績報告					
		(R4)年度	(R5)年度	(R6)年度	(R7)年度	(R8)年度	
原油換算エネルギー使用量	kL	4,781					
温室効果ガス総排出量	t-CO <sub>2</sub>	6,941	0	0	0	0	0
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>	6,941					
非エネルギー起源CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>	0	0	0	0	0	
CH <sub>4</sub>	t-CO <sub>2</sub>						
N <sub>2</sub> O	t-CO <sub>2</sub>						
HFCs	t-CO <sub>2</sub>						
PFCs	t-CO <sub>2</sub>						
SF <sub>6</sub>	t-CO <sub>2</sub>						
エネルギー等原単位の推移							

備考「温室効果ガスの種類別の排出量内訳」欄については、事業者行動計画の提出義務の要件に該当しない温室効果ガスの排出量は、記入する必要はありません。

(第3面)

5 再生可能エネルギー等の利用に関する取組

(1) 再生可能エネルギー等の利用に関する取組の内容等

■ 計画最終年度までの取組の内容等

	実施計画		実績報告
	取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1			
2			
3			
4			
5			

■ 中長期的な取組の内容等

	取組の内容
1	
2	
3	
4	
5	

(2) 所有する主な再生可能エネルギー設備

太陽光	kW	水力・小水力	kW	地熱	kW
太陽熱	kW	バイオマス	kW	その他 ( )	kW
再エネ設備を効率的に利用する設備の導入実績					

(3) 再生可能エネルギー電気設備での発電量および自家消費量の実績

	計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
		( )年度	( )年度	( )年度	( )年度	( )年度
再エネ電気設備での発電量	kWh					
上記のうち自家消費量	kWh					